

まち活 ごみ つうしん

ねりままちづくりセンター

取材 / 2009年11月29日

—「生ごみを回収し練馬の土に還し、その土から育った野菜を食べる。」そんな地域循環を目指し、農家と私たち区民の生活をつなげようと活動している『ねりま・ごみフォーラム』は、生ごみの回収を始めて4年目。一般家庭の生ごみを農家に使ってもらうには、区民と農家との信頼関係を築くことが大切です。活動メンバーが農家にインタビューすると聞いて、練馬まちづくりセンターも同行しました。

生ゴミは、農家と区民との架け橋だ！

農はあなたのすぐそばに

練馬区内にある体験農園は全部で14園。区内の農園はどこも大人気で、「イガさんの畑」も一面の野菜で溢れていました。今日のインタビューでは五十嵐さんのこと、土や堆肥のこと、今の農家を取り巻く環境のことなど、農業と地域の人をつなぐ手がかりに

ついて『ねりま・ごみフォーラム』のみなさんからたくさんの質問が飛び出しました。「土に対してのこだわりは?」「堆肥はどんなものを使っているのですか?」など聞きたいことが盛りだくさんです。

包容力のある土とは?

土づくりの基本は、堆肥を入れてよく





耕すこと。そうすると水はけや水持ちもよく、微生物のたくさん住む豊かで包容力のある土が出来上がるのだそうです。そんな土を生ごみから作るには、どうすればよいでしょうか？五十嵐さんからこんなアドバイスを頂きました。「生ごみを良質の堆肥にするには、十分な熟成が必要。また、生ごみだけではなく他のもの（落ち葉などの

繊維質）を混ぜることも大切ですね。」一同なるほど～。では、生ごみを出す側の心がけには何が必要なのでしょうか？

近道は小さなコトの積み重ね

ねりま・ごみフォーラムのみなさんに生ごみ回収の活動ポイントを伺ったところ、まずは家族の理解と協力を得ること。しっかり生ごみの水気を切り、

分別を行うこと（例えばティーバックは「葉」と「包み紙」に分けないと土には還りませんよ、と本間さん）。最初は面倒だなと感じても生ごみを分けることが台所仕事の手順になり自然に生活の一部になっているそうです。ほんの少しの気配りと手間が、私たちと農家のみなさんをもっと近づけるのですね。

“生産者”の目線で

「今日うちから一掴み持ってきたんですよ」と、自家製の堆肥を見せてくれた緒方さん。その感触を確かめる五十嵐さんをはじめ、みんな興味津々です。農家（生産者）と私たち（消費者）



▶農業経験ゼロから始めたという五十嵐さん。最初は見よう見まねの手探りだったそうです。



の関係は、生ごみを堆肥にした時にはその立場は逆転します。現在五十嵐さんは市販の堆肥を購入しているようですが、生ごみ堆肥の品質がより向上し、農家（消費者）に選んでもらえるようになれば良いですね。生ごみを見直したい！と思った瞬間でした。

帰り道にみつけた！

五十嵐さんから「うちの直売所は農園を出た先ですよ」との情報を元に帰りがけに立ち寄ってみると、大きなブロッコリーやカブが並んでいました。「わぁ、大きい！」思わず声が出てし

▶これまでに集めた生ごみ回収量は3年間で約6トン！

まいます。顔の見える相手だからこそ
の安心感。生ごみを通して農家のこ
と、農業のこと、もっともっと知って
いきたいですね。

フードマイレージを学ぼう

「今夜の夕食の材料はどこから来ているの？」そんなお題の下、たくさんの野菜や食品が並んでいる写真を見せて頂きました。フードマイレージを知るイベントの様子です。子供たちも楽しそう！！今度のお題はカレー？おでんのメニュー？楽しみながら学べますね。

※フードマイレージとは…「食料の（＝food）の輸送距離（＝mileage）」を指します。食料の生産地と消費地が近ければ近いほど、フードマイレージは小さくなります。その分環境にも優しく地域に還元できるという考え方です。



団体さん、今日を振り返る。 活動メンバー本間さんのお話

五十嵐さんをお訪ねして、体験農園への大きな「思い」を今回初めて知ることができました。サラリーマンを辞めて家業の農家を継いで、初めは不安もあったと思いますが、体験農園を通して利用者との触れ合いを楽しく感じるまでになったことで、今は自分のためばかりか多くの人のためにももっと農業を大事にしたいと思うまでになられたのだと理解しました。それが「農業をやっていて良かった」ということばになったのだと思います。それ故に区民からの応援の声が素直に嬉しく感じられるのでしょう。五十嵐さんの人柄を感じた一日でした。



五十嵐さんの直売所。おいしそうな大根の葉っぱ！

活動団体基本データ

設立

2004年10月

活動テーマ

生ごみ回収と堆肥化を通して、農家・区民・行政の相互理解と協力による資源循環型の環境まちづくりを試行しています。今年度は特に、農家と区民の仲介役、農への意識を高めること、生ごみ堆肥場の確保を目指しています。

活動実績

- ・環境月間行事／消費生活版／環境リサイクルフェア（毎年）
- ・練馬区環境行動連絡会・講演会幹事開催（2007.2、2008.3）
- ・生ごみ回収の仕組み作り試行（2007.4-2008.3）
- ・生ごみ回収の継続的改善と連携強化（2008.4-2009.3）

ホームページ

www.geocities.jp/nerima_gomiforum
団体連絡先
tkm3becci@ac.cyberhome.ne.jp

団体拠点案内

活動場所
練馬区全域



これからの展望

顔が見える

コミュニケーション

顔が見える関係になれば、生ごみを出す側にも、良質生ごみ提供の気遣いが生まれます。また、それぞれの農家のこだわり所を知った上で堆肥を提供すれば、農家は安心して使用できます。大事なものは信頼関係を築くためのコミュニケーション！ねりま・ごみフォーラムと区民、農家、行政、三者の信頼関係があってこそ、活動が生き生きしてくるのです。

今後こんなグループとつながりたい！

小平・環境の会／日野まちのごみを考える会／町田市ごみ減量連絡協議会／川崎ごみ連

活動メンバー紹介



本間 孝嗣 さん

今回インタビューした五十嵐さんとは以前からの知り合いだそうで、時に的を得た質問も。農家とのつながりを大事にして活動されています。



緒方 君子 さん

自宅の生ごみを土に戻す歴16年の緒方さん。今回、質問項目をたくさん用意してインタビューに臨まれていました。

他にもたくさんの方がいらっしゃいます！是非活動をのぞいてみてくださいね。

練馬まちづくりセンター

発行日 2010年3月8日
取材／編集 練馬まちづくりセンター
デザイン 濱祐斗 山口真生
発行元 (財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター

練馬区豊玉北5-29-8 練馬センタービル 3階
Tel. 03-3993-5451 Fax. 03-3993-8070
Email machi@nerimachi.jp Web <http://nerimachi.jp>

練馬まちづくりセンターは、練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場から協働型まちづくり事業を実施する組織です。

練馬まちづくりセンターは“まちづくり活動助成事業”で、ねりま・ごみフォーラムを応援しています。

まちづくり活動助成事業とは、区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために取り組む、区民主体のまちづくり活動への支援を目的としています。



【はばたき部門】助成金額30万円以内

身近な生活空間の保全改善等のために取り組むまちづくり活動への助成



【テーマ部門】助成金額1年目10万円以内 2年目50万円以内

身近な場所で生き物を呼ぶ空間をみんなで楽しみながら創り出す活動への助成



【たまご部門】助成金額3万円以内（年中受付しています）

上記2つの部門の様なまちづくり活動を始める、きっかけづくりや学習会などを開催するための助成